

新約  
聖書

約翰傳

全

02-SI

海老澤文庫

約翰傳福音書

海老澤有道文庫

太初はじめも道みちあり道みちの神かみと借かかりあり道みちの即すなはち神かみあり 二 みの道みちと太初はじめも神かみと借かかりあり 三 萬物よろづものみれも由よりて造つくらる造つくる者ものも一ひととして之これも由よりらで造つくらるし無なし 四 之これも生いあり此この生いの人の光ひかりあり 五 光ひかりの暗くらも照てり暗くらの之これと曉さらざりき 六 借かかりこゝも神かみに遣つかし給たまへる 七 八 子こと云いはる者ものあり 九 其その來きたりし人の證あかしの爲ためあり即すなはち光ひかりも就つきて證あかしと作なすべての人ひととして己おのれも因よりて信しんぜよめんが爲ためなり 八 彼かれの光ひかりも非あらず光ひかりも就つきて證あかしと作なす爲ためなり 九 夫それをべての人ひとと照あす其その光ひかりは世よも來きたり 十 其その世よもあり世よの彼かれも造つくるをさるも世よもみよと識しす 十一 其その己おのれは國くにも來きたりし其その民たみも其その接あひりき 十二 彼かれと接あひるは名なと信しんぜし者ものも其その權あきらと賜たまひて此これと神かみに子こと爲なり 十三 斯かる人の血ち脈みやくも由よりも非あらず情じやう慾よくも由よりも非あらず人ひとは意こころも由よりも非あらず唯ただ神かみも由よりて生いきし也 十四 其その道みち肉にく體たいも成なて我われの儕らいの間まも寄より我われの儕らいの榮さかえと見みる實まことも父ちちの生いたまへる獨ひとり子の榮さかえして恩めぐみ寵あつと眞まこと理ことも充みて 十五 八 子こ之これが證あかしと作なして呼よびひけるは我われさきも我われも後あとも來きたらん者もの



ると回顧て爾曹あふと求るやと彼等又問ふたへてラビ何處お住るやと曰  
 ラビと譯バ師と云は義あり 三九 イエス彼等ふ來り觀よと曰たまひけれバ遂  
 お往て其住り給ふ處と見て是日ともお住り時ハ晝は四時おるありた 四  
 ヨハ子は曰し言と聞てイエスお從へる二人は者は其一人ハシモンペテロ  
 此兄弟アンデレンあり 四一 され先ろは兄弟シモンお遇て曰けるハ我儕ソツ  
 シヤお遇りメツシヤと譯バキリストあり 四二 即ち彼とイエスお携往しおイ  
 エス視て之お曰けるハ爾ハヨナ乃子シモンあり爾ハケバと稱らるべしケ  
 バと譯をベテロあり 四三 明日イエスガリラヤお往んとしてピリボおあひ  
 我お從へと曰り 四四 ピリボハアンデレとベテロは住るベツサイダと云る  
 邑の人あり 四五 ピリボナタナエルお遇て曰けるハ我儕律法の中おモーセが  
 載たるとある預言者等の記しと所は者お遇り即ちヨセフは子ナザレのイエ  
 スあり 四六 ナタナエル曰けるハナザレより何は善者いでん乎ピリボ彼お曰  
 けるハ來て觀よ 四七 イエスナタナエルの己が所お來るを見りすと指て曰けるハ

視よ眞のイスラエルは人おして其心詭譎るき者ナ 四八 ナタナエルイエスお  
 曰けるハ如何おして我を知たまふ乎イエス之お答て曰けるハピリボが爾  
 と召さる先お無花果樹は下お爾は居ると見さり 四九 ナタナエル答て曰ける  
 ハツピ爾ハ神は子あり爾ハイスラエルの王あり 五十 イエス答て曰けるハ爾  
 が無花果樹の下お居ると我見しと言るお因て爾信するハ此よりも大ある  
 事と爾とるべし 五一 又いひけるハ我まるとお實お爾曹お告ん天ひらけて神  
 の使等人は子は上お陟降すると見ん

**第三日**おガリラヤはカナあて婚筵ありしがイエスの母も此お居り 二  
 イエスと其弟子も婚筵お請る 三 葡萄酒罄けをば母イエスお曰けるハ彼等お  
 葡萄酒あし 四 イエス彼お曰けるハ婦よ爾と我と何は與あらんや我時ハ未だ  
 至ず 五 ろは母僕等お向て彼が爾曹お命する所は事と行よと曰おけり 六  
 七 人ハ潔は例お從ひて四五斗盛は石甕六あしお備ありしが 七 イエス  
 僕等お水と甕又滿せよと曰けをを彼等口まで滿せたり 八 又あきと今挹取

て持ゆき筵と司る者そのふ與せと曰けきバ彼等らとせり九 筵と司る者酒ふ變  
し水と嘗て其何處より來しと知ず然されと水と挹し僕の知り十 筵と司る者新  
郎と呼て彼ら曰ける凡ろ人のまづ旨酒を進し酒酣あるお及て魯酒と進  
お爾の旨酒と今まで留りけり十一 此事とイエスがガリラヤにカナあて行る  
の休徵は始はして其榮と顯せり弟子の色と信ず○ 此後イエスらは母兄  
弟および弟子等カペナウンお下り其處お居みと久あらずして十三 ユダヤ人  
は逾越節ちるづきけきバイエスエルサレムあ上り十四 殿おて牛羊と賣者  
と兌銀する者は坐せると見十五 繩もて鞭つくり彼等および羊牛と殿  
より逐出し兌銀する者は金と散し其案と倒し 鴿と賣者お曰ける凡此物  
と取て往て父の室と貿易の家ととる勿を 弟子等あんぢは室は爲お熱  
心と色と飽んと錄さきたるを憶起せり十六 此おユダヤ人あとへてイエスよ  
曰ける凡爾あきらは事と爲らよ凡我儂よ何の休徵と示るや十九 イエス答  
て爾曹の殿と毀て我三日あて之と建んと曰けきを二十 ユダヤ人いひける

の此殿と建るふ凡四十六年と經へふ爾三日あて之と建るの二 イエスの如  
此いへる凡其身の殿と指るなり三 死より甦り給へる後弟子たちイエスの  
此事と語しと憶起し聖書と彼の曰言と信ぜり三三 偕イエス逾越節おエル  
サレムあ在しお多れ人あれは行し休徵と見て其名と信ぜり三三 イエス自己  
と彼等に托す蓋すべては人と知三 又た人は心に中と知る故お人あついて  
證と立る者と求ざきバ也

ユダヤ人は宰あてバリサイはニコデモと云る人ありニ三 あき夜イエ  
スあ來て曰ける凡ラビ我儂あんぢの神より來し師ありと知るの神も一人  
と偕あらずを爾が行るふは休徵の人こきと行ふと能ざきバ也三 イエス答て  
曰ける凡誠お實お爾お告ん人も一新お生ずの神は國と見みと能ひじ四 ニコ  
デモ彼お曰ける凡人はや老ぬきを如何で復生る事と得んや再び母は腹  
お入て生る可んや五 イエス答けるの誠お實お爾お告ん人の水と靈こお由  
て生ざきバ神は國お入みと能ざる也六 肉お由て生る者の肉あり靈お由

て生るゝ者ハ靈あり 我あんぢお新お生るべき事と言一と奇と爲ある色  
 ハ風ハ己の任に吹るんぢ其聲と聞ごも何處より來り何處へ往と知ず凡て  
 靈お由て生るゝ者も此れ如し 九 ニコデモ答て如何て此事あらん乎と曰 十  
 エス答て曰けるハ爾之イスラエルは師あるお猶ふは事と知ざる乎 誠お  
 實お爾お告ん我儕知し事をいひ見し事と証せるお爾ハ我儕は証と受す 十二  
 若と地は事と言お爾信ぜずバ况て天は事と言んお何で信するものと  
 爲んや 十三 天より降り天おとる人ハ子ハ外お天お升し者あし 十四  
 蛇と舉し如く人ハ子も舉らるべし 十五 凡て之と信する者お亡るものと無して  
 永生と受しめんお爲あり 十六 そは神のろは生たまへる獨子と賜ほごお世  
 人お愛し給へる此之凡て彼と信する者お亡ること無して永生と受し  
 めんお爲あり 十七 神は其子と世お遣し給へるハ世は罪と定んとお非ぢ彼お  
 由て世と救んお爲あり 十八 彼と信する者の罪お定らさず信ぜざる者の既よ  
 其罪さだまきり蓋神は生たまへる獨子ハ名と信ぜざるお因 罪は定る所

以ハ光世お臨し人ろは行は悪お因て光と愛せず反て暗と愛すを也 二十  
 凡て悪とある者の光と惡と其行と賣らさざらんお爲お光お就らぢ 二二  
 行ふ者の其行の顯せんが爲お光お就る蓋神お遵て行へを也 二三 此後イエ  
 ス弟子とユダヤは地お至り借お彼處お留りてバプテスマと施す 二四  
 亦ハリムお近きアイノムお在てバプテスマと施す彼處ハ水おをきが故  
 ち人々來りてバプテスマと受たり 二五 此時ヨハ子の未だ獄お入らさざり  
 き 二六 ヨハ子ハ弟子とユダヤ人と潔事お就て争辨ありけるが 彼等ヨハ子  
 お來りて曰けるハラハ視よ爾と借おヨルダンハ外お在て爾が證せし者ハ  
 プテスマと施すお習のきお來きり 二七 ヨハ子答て曰けるハ人ハ天より賜ふ  
 お非さを受るものと能ざる也 二八 我ハキリストお非す惟それ先お遣ささし  
 者なりと言し事を證せる者の爾曹あり 二九 新婦ともてる者の新郎なり新郎  
 友たちて其聲と聞を之お縁て喜び多し 我いま此喜び滿るものと得たり  
 三〇 彼の必ず盛んおあり我ハ必ず衰ふべし 三一 天上より來る者ハ萬物ハ上お

あり地より出る者の地を屬るは言どもろも地は事あり天より來る者の萬物に上あり在り彼の自ら其見しどもろ聞し所は事と證と爲ふ其證と受る者あり  
 三三 され證と受し者の印もて神は眞ある事と證と神は遣しし者の神は言と語る蓋神みきお靈と賜ひて限量あけを也 父の子と愛して萬物と其手お授たり 子と信する者の窮あき生命とえ子お從のざる者の生命と見ると得じ且神は怒るは上お留らん

**第四章** 主おこれの弟子と收ること又バプテスマと施せるもどヨハチよりも多しとバリサイ人の聞しと知 然ぞ其實のイエス自らバプテスマと施せるお非ず弟子みきと行るあり 其時ユダヤと去て復ガリラヤお往り此邑のヤコブの子ヨセフお予し地又近し 此おヤコブは井ありイエス行途は疲倦おて其井は傍お坐せり時の晝の十二時ごろありき 一人のサマリアは婦水と汲んとて來りけきバイエスは婦お向て我お飲せよと

曰 蓋弟子だち食物と買んさめお邑へ往て在ざりし故あり 九 サマリアは婦いひけるの爾のユダヤ人おして何予サマリアは婦ある我お飲みとと求るや此のユダヤ人とサマリアの人との交際と爲ざきバ也 十 イエス答て曰けるの爾もし神は賜と我お飲せよといふ者は誰あると知バ爾わきお求めん然バ活水と爾お予ふべし 十一 婦イエスお曰けるの主よ汲器あく井も亦深し爾何處より汲て其活水と有るの 十二 此井の我儕は先祖ヤコブの予し所あり彼も其子も亦畜までも皆みきと飲たり爾の彼よりも勝し者あらん 十三 イエス答て曰けるの凡て此水と飲者とまゝ渴ん 然ぞ我あさふる水と飲者之永遠おとく事おし且お予ふる水の其中おて泉となり湧出て永生お至るべし 十四 婦いひけるの主よ我が渴みとあく亦みの處は水と汲お來らぬ爲ろの水と我お予へよ 十五 イエス曰けるの爾ゆきて夫と呼來を 婦おたへて曰けるの我お夫おしイエス曰けるの夫おしと言るの理あり 十六 蓋おんぢ曩お五人の夫ありて今ある者のの爾の夫お非ず爾は言しを眞あり 十七 婦

いひけるの主よ我あんぢと預言者と知り我儕は列祖の此山あて拜しよ  
 お爾曹の拜すべき所のエルサレムありと曰イエス曰ける婦よ我と信  
 ぜよ唯お此山はみお非ず亦エルサレム而已おも非ずして爾曹父と拜すべ  
 き時きたらん爾曹は拜する者と我儕は拜する者といて父と拜  
 するの救のユダヤ人より出るお故あり眞は拜する者といて父と拜  
 する時きたらん今ろは時あまきり夫父の是は如く拜する者と要め給ふ  
 神の靈あまきり拜する者もまゝと靈と眞ともて之と拜すべき也婦いひける  
 のキリストと稱するメツシヤは來らん事と知るを來らん時凡は事と我儕お  
 告んイエス曰ける爾と語る所は我と其あり時お弟子きさりて彼は  
 婦と語ると奇みけれと其何と求るや又あお故あまきり語ると問る者も  
 無り死婦ろは水瓶と遺して邑あゆき人々お曰ける我をばへて行し事  
 と我お告し人と來りて觀よ此のキリストあらず乎是お於て人々邑と出  
 てイエス乃所お來るろは間お弟子かれお請てラビ食し給へと曰けきバ

イエス彼等よ曰ける我お爾曹の知る食物あり弟子とがひお曰け  
 るの食物と彼お饋し者と誰ある乎イエス彼等お曰けると我と遺しよ者  
 は旨お遵ひ其工と成畢る是はが糧あまきりなんぢら穡時ああるお猶四ケ  
 月ありと云すや我あんぢらお告ん目と擧て觀よこや田の熟て穡時あある  
 り穡者の其工と受て永生お至るべは實と積む斯て播者と穡者と同  
 お喜ばん彼の播みよの種と云るの之お就て眞あり我あんぢらは勞せ  
 ざりし所と穡せんとして爾曹と遣せり他は人々勞せしおより爾曹の其勞  
 しるる果と受さりおの婦は行し凡は事と彼と告しと證せし言お  
 因て其邑のサマリア人おほくイエスと信ぜり是お於てサマリアは人  
 エスは所お來りて偕お留り給はん事と求しおバイエス此お二日留をり  
 彼の言お因て信ぜし者前よりも多ありたおをら婦よ曰ける今あんぢ  
 は言し事お因て信するお非ず我儕とばおら聞て此の誠お世は救主と知  
 きを也〇二日と過ぎてイエス此と去ガリラヤお往り蓋おを自ら預言者



の本土きよあてた尊たばるゝ事ことあしいと言いひお因よりガリガララヤヤああ至いたりし時ときガリガララヤヤは  
 人々ひと彼かれと接あたり蓋おほさきお節い筵はれ時ときイエイススははエルエササレレムムああて行たひし凡すべれ事こと  
 と彼等かれらもろ乃いは節い筵はあ往あて之これと見みたききバ也なり イイエエスス復またガリガララヤヤははカカナナああ至いた  
 る此この囊ふくろお水みづと酒さけお爲なし處ところあり時ときお王わうはは大臣たいしんろの子こ病やまひお係かりてカカペペナナウウン  
 お在ありけききをを イイエエススははユユダダヤヤよりガリガララヤヤああ来きたる事こととささく即すなちちイイエエス  
 の所ところあ往あてカカペペナナウウンンああ下くだり其その子こと醫いひ給たまはんと請こむろの瀕しづ死せりあり  
 けききをを也なり イイエエスス彼かれあ曰いけるの爾なんぢ曹そう休やすめと異こと能あたり見みずを信あんぜせし 彼かれ曰いけ  
 るの主あらら我わ子こは死しざる先まあ下くだり給たまへ イイエエスス曰いけるの往あひひんんぢぢは子この生い  
 るあり其その人ひとイエイススは曰いひ言ことて信あんじて去さる下くだる時ときお彼等かれらああお遇あひて告つ  
 けるの爾なんぢは子この生いくあり 彼かれお愈いはじめし時ときお彼等かれらあ問たづねけききを答こたへて昨きのう  
 日け晝ひるれ一時いまお熱あつさめたりと曰いふ 父ちちとイエイススは爾なんぢが子この生いく也なりと言いたま  
 ひし時ときお其時そのときお同おなきみと知ある己おのれと其全家いへああとくく皆みな信あんぜり 爾なんぢは第だい  
 二には奇き跡あととイエイススユユダダヤヤよりガリガララヤヤああ至いたりて行あるあり

第五章

厥その後のちユユダダヤヤ人ひとの節い筵はありけききばイエイススエルエササレレムムああ上ありりニニ

ササレレムムの羊ひつじ門かどは邊へりハハブルブルの方かた言ことてベベテテススダダといいふ池いけあり此こ池いけお五いつは廊らう  
 あり 三さんろの中なかお病やまひ者もの替かり者もの跛あし者ものと衰おとろへる者ものああと多おほく臥ふして水みづは動うて待まちり  
 四よその天あまの使つかひ時とき々々池いけあ下くだりて水みづと動うすことあり水みづは動うるのち先まちて池いけに入い  
 五ご者ものの何なにれ病やまひあよよららず愈いたり 三十八年さんじゅうはちねん病やまひたる者もの一人ひとりあししるるよよ在あり 六ろくイイエエ  
 七しちスス彼かれが臥ふして見るみるて其病そのやまひは久ひさしと知あるるお曰いけるの愈いふことと欲ほふや 病やまひ  
 八はちる者ものああとへけるの主あらら水みづは動うるとき我わと扶たすけて池いけあ入いる人ひとあし我わいらんと  
 九くそる時ときの他ほかれ人ひとくだりて我わより先まあ入いるハハ イイエエスス彼かれあ曰いけるの起たよ床とこと取と  
 十じゅう取とて行あめ 九くろれ人ひと立たち刻とこお愈いををあはち床とこと取と取とて行あめり此こ日ひの安やす息そく日ひなり  
 十一じゅういちキキ ユユダダヤヤ人ひといいわし者ものあ曰いけるの今日けふは安やす息そく日ひあきバ爾なん床とこと取と取との宜よろし  
 十二じゅうにららず 彼等かれらあ答こたへけるの我わと愈いままる者もの見みれおとこと取と取とて行あめと言いひ 十三じゅうさんか  
 十三じゅうさんききら問たづねけるの爾なんぢに床とこと取と取とて行あめと言いひ人ひとは誰たれあるる乎や 愈いし者ものろれ誰たれ  
 十四じゅうしあると知あるるさ蓋おほししみみ多おほれ人ひととりし故ゆえイエイスス避さけたきバ也なり 厥その後のちイイエエ



お賜て成遂しむる事すまはち我行ふ所は事は是父の我と遣しとみとと證  
 すれをあり 且とと遣考と父も我もとと證せり爾曹いまだ其聲と聞ず  
 未だ其形と見ず 其の道は爾曹は心お存ざりき蓋あんぢら其遣考と者  
 信ぜざるお困て知るも也 あんぢら聖書お永生ありと意て之と探索こ  
 け聖書と我おついで證する者あり 爾曹おが所お生と得んおさめ來ると  
 欲す 且と人の榮と受す わを爾曹と知あんぢらの其心お神と愛するは  
 愛あらざる也 我の吾父の名お靠て來考お爾曹とと接すもし他は人お  
 のケ名お靠て來を爾曹もと接ん 爾曹の互お人は榮と受て神より出る  
 榮と求ざる者あるお何で能信ざるみとと得んや 爾曹と父お訴る者と我  
 と意ふ勿き爾曹と訴るもの一人あり即ち爾曹の恃どころはモーセあり  
 若モーセと信ぜば我と信ずべし蓋モーセ我事と書さるはあり 若モーセ  
 は書さる言と信ぜずは何で我言しむとと信ぜんや

此後イエスガリラヤは湖するあちテベリアは湖は前岸へ濟しふ 許

多し人々もをこ隨ふ蓋かき病し者お行し休徴と見一ダ故あり イエス  
 山お上り弟子と借お其處お坐せり 時ユダヤ人の踰越は節お過し イエ  
 ス目と擧て多の人來をると見てピリポお曰けるは何處よりパンと市て  
 彼等お食しむ可る 自ら其爲んとする事と知彼と試んダ爲お如此いへ  
 る也 ピリポ答けるは銀二百のパンも人おと少づと予てあほ足ざるべ  
 し 弟子は一人即ちシモンペテロは兄弟アンデレイエスお曰けるは  
 此お一人の童子あり麩麥のパン五と小き魚二と有り然とみは許多人お  
 如何とべきや イエス曰けるは人々と坐せよ其處も多の草あり約五  
 人ほど坐ぬ イエスパンとと聖祝謝て弟子お予へ弟子も坐し人お予  
 ふ又此は如おして小き魚とも人々は欲お隨ひて彼等お與たり 飽た  
 る後イエス弟子お曰けるは少も廢いざるやうお其餘は屑と拾集めよ 彼等  
 が食せし彼五の麩麥はパンは餘遺は屑と拾集けよ 十二は筐お盈て 人  
 々イエスは行し奇跡と見て此の誠お世お臨るべき預言者ありと曰 是お

於てイエス彼等が來り己と執て王を爲んとせると知たど獨りて之と避ふ  
 たゞび山に入たり 日は暮るる弟子海へ下て 舟を登カペナウシに向  
 て海と濟る既暮けきどもイエス彼等が就す 狂風ふくも因て漸く海あ  
 さいだせり 一里十町をり漕出せる時イエスの海へ行と舟を近くと見  
 て弟子たち懼たり イエス曰ける我なり懼るる勿き 是は於て弟子喜  
 びて彼と受け舟を登けれバ直も其往んとする所の地お着ぬ ○ 明日ある  
 たれば海岸お立し人々昨日弟子は登し舟は外おの舟なく且イエスの弟子と  
 借も舟を登す弟子はみ往ると知 此時テベリアより外は舟きたり主は所  
 りて人々おパンと食しと所の近お着り 人々イエスに此お在す弟子も亦  
 在ざるを見て彼等も舟を登イエスを尋ん爲おカペナウシに至る 湖は  
 前岸おて彼お遇いひけるのラビ何時もくお來り給ひし乎 イエス答て曰  
 ける誠は實お爾曹お告ん爾曹は我と尋るの休徴と見し故も非たマパン  
 を食して飽たるが故あり 爾等も尋るの休徴と見し故も非たマパン  
 を食して飽たるが故あり 爾等も尋るの休徴と見し故も非たマパン

る糧するはち人の子は予る糧の爲お勞くべし蓋父の神の靈を印して證す  
 べき也 是は因て人々イエスお曰ける我儕如何ある事と行を神の工お  
 爲べき乎 イエス答て彼等お曰けるの神の遣しと者を信するは即ち其工  
 あり 彼等いひける我儕と志て爾と信ぜらむる爲も何れ休徴と爲して  
 我儕お示るや何れ工と行ふや 我儕は先祖野おてマナと食へり録して天  
 よりパンと彼等お賜へて食しむと有る如し イエス曰ける誠は實お爾  
 曹お告ん天よりパンと爾曹も賜し者もモーセお非す今おが父の天より眞  
 らんパンをもて爾曹お賜ふ 神はパンの天より降りて生命と世お賜るもの  
 也 彼等いひけるの主は恆も其パンと我儕お予よ イエス曰ける我  
 の生命はパンあり我お就る者も餓す我と信する者の恆も渴みどあし  
 然も我あんぢらが我と見ても信ぜざる事と爾曹お告たりき 凡て父は我  
 お賜し者の我お就らん我お就る者の我あるあらず之と棄ず 且お天より降  
 しの己は意は任と行のん爲お非ず我と遣しと者は意はまると行のん爲お

凡て父は我を賜し者としてわき一をも失はず末日あ之を甦らすの即ち我  
 と遣しと父は意あり 凡ろ子と見て之と信する者の永 生と得べき復みと  
 と未だ日あ甦らすべし是とを遣しと者は意あをばあり 是は於てユダヤ  
 人等イエスは我の天より降り降しパンありと言ふことあつた 譏いひけるの  
 彼が父母の我儕は曠とあるあらずや即ち彼とヨセフの子イエスは非ずや然  
 るあ何ぞ我の天より降り降しと言ふ イエスは答て曰けるの爾曹とがひあ譏あ  
 ど勿き 我と遣しと父もし引さるべ人よく我あ就るあし我あ就る人の未  
 日あ我あをと甦らすべし 預言者は書あ人とも敢と神あ受んと録をきた  
 り是故あ凡て父より聴て學し者の我あ就る 然と父と見し者のあし惟神  
 より來る者はみ之と見たり 誠あ實あ我あらんちらあ告ん我と信する者の  
 永 生あり 我の生命はパンあり 爾曹は先祖の野あてマナと食しあを  
 死り 凡て食者として死ざらしむる者の天より降り降するパンあり 我の天  
 より降り降し生るパンあり若人これパンと食の窮あく生べし我あさふるパ

ンの我肉あり世は生命は爲あ我あを賜へん 爰あユダヤ人あがひあ争  
 ひ曰けるの此人いあで其肉と我儕あ賜て食はしむる事と得ん乎 イエス  
 曰けるの誠あ實あ爾曹あ告ん若し人れ子は肉と食す其血と飲さるべ爾曹  
 あ生命あり 且あ肉と食と飲者永 生あり我未だ日あ之と甦ら  
 すべし 夫わが肉の誠は食物と血と飲者永 生あり我未だ日あ之と甦ら  
 血と飲者の我より我も亦かきあ居 生る父とを遣と父あ由て我生る  
 如く我を食ふ者も我あ由て生べし 是は天より降り降するパンあり爾曹は先  
 祖が食とを尙死しマナは如きもれあ非ず此パンと食ふ者の窮あく生べ  
 し 此等此事のイエスカペナウンは會堂あて教と爲るとき言し所なり  
 弟子等れうち多れ人これを聞て曰けるの此の甚しき言あり誰か能あを  
 聽んや 弟子は此言よりいいて譏とイエス自ら知て彼等あ曰けると此言あ  
 因て礙く手もし人れ子の故は處あ升と見を如何 生命と賜る者の靈あ  
 り肉の益あし我あらんちらよ曰し言と靈あり生命なり 然と爾曹は中あ

信ぜざる者あり夫イエスは如此いへるの信ぜざる者の誰かのきと買を  
 者の誰といふ事と元始より知バあり 六五 イエスまよ曰けるは是故我さき  
 お我父あたへさきバ人よく我お就るあしと言ひあり 六六 此後ろは弟子おほ  
 く返往てイエスと借お行のざりき 六七 之お因てイエス十二比弟子お曰けるは  
 爾曹も亦去んと意ふや 六八 シモンペテロ答けるは主よ我儕の誰お往んや永  
 生に言と有る者の爾あり 六九 又曰れら信じて知あんちの活る神の子キリスト  
 あり 七〇 イエス彼等お答けるは我あんちら十二人と簡しお非ずや然と其中  
 比一人は悪魔あり 七二 此のシモンは子イスカリオテはユダと指て言るあり  
 彼の十二比一人にしてイエスと賣さんとする者あり  
**第七節** 斯事の後イエスガリラヤと經行りユダヤの中と巡るふとを欲ざり  
 き蓋ユダヤ人のきと殺さんと謀をバ也 七三 借ユダヤ人は構慮は節ちあづけ  
 り 七四 是に於てイエスの兄弟あきお曰けるは爾は行ふ所は事と弟子等お見せ  
 んが爲るよと去てユダヤお往 七五 その己と顯さんとして隠お事とあそ者あら

す爾ふれらは事と行と己と世お顯せよ 七六 是ろは兄弟もあは彼と信ぜざ  
 るの故あり 七六 イエス彼等お曰けるは我時いまだ至す爾曹は時之恒お備れ  
 り 七七 世の爾曹と惡こと能す我と惡その彼等が行ふ所の惡し我證をきを  
 あり 七八 爾曹お上を我時いまだ至らざきバ我いま此節お上らじ 七九 如  
 此いひてガリラヤお留をり 八〇 比兄弟は往し後イエスも昭然ならずして隠  
 お節お上る 八一 節は時ユダヤ人イエスと尋て曰けるは彼を何處お在や 八二 衆多は  
 中おて彼おけき各様れみとと言争へり或人と彼と善人ありといひ或人の  
 否民と感ず者ありと曰 八三 然どもユダヤ人を懼るお因て明は彼お事といふ  
 人あし 八四 節筵比半ごろイエス殿お上りて教諭けきバ 八五 二ダヤ人あきと  
 奇み曰けるは此人の未だ學バず如何して書と識や 八六 イエス彼等お答て曰  
 けるは我教る所の我教は非ず我と遣しし者の教あり 八七 人もし我と遣しし  
 者の旨は徒といふ此教の神より出るは又己は由て言あるると知べし 八八 己に  
 由て言者の己の榮と求るあり己と遣しし者は榮と求る者の真あり其衷お

不義あり。モーセ爾曹は律法と與し、非ずや。然も爾曹の中あり、之と守る者あり。爾曹なによえ我と殺んと謀るや。衆人みたへて曰ける、爾鬼お憑さり誰か爾と殺すふと謀らん乎。イエス答て彼等お曰ける、我さきあ一事と行しお爾曹みる奇とせり。モーセ爾曹お割禮を授し、其己より出しお非して先祖より出し者あるが故あり。之お因て爾曹割禮と安息日お行ふ。人もしモーセの律法と破ざらんぶとめ安息日お割禮と受る時、何ぞ我安息日お人れ全身と愈し、事と怒るや。外貌およりて是非と定るふと勿き義ともて定よ。此時エルサレムに或人いひける、此の人々の殺んと謀る者お非ずや。今のを明いふ而して之と尤る者ありし有司等、彼と誠おキリストありと知ららん乎。然も我儕は此人れ何處より來しと知もしキリストに來らん時は、誰も其何處より來ると知者あるらん。此時イエス殿おて教とりしが、大聲お叫ひひける、爾曹とれと知また我いつこより來ると知さきと我の己よ由て來しお非ず我と遣し、者、眞ある者おて爾曹

れ知ざる所あり。我の彼と知ると我の彼より出るきは我と遣し、者あるは也。是お於て彼等イエスと執へんと謀り、然も其時、いまだ至ざるが故お措手する者ありき。民に中れほく、人あると信じ曰ける、キリストに來らん時、れ行とみろ、れ休徵みの人より多らん乎。パリサイの人民等、イエスよ就て如此ひろお語あふと聞そ、あるち祭司に長等とパリサイ人、彼を執んとて下吏を遣せり。是お於てイエス曰ける、我あは片時あんちらと借おとり而して後、と遣し、者よ往ん。あんちら我と尋るとも遇べからず、我とる所へ爾曹きとること能ざるべし。ユダヤ人相互お曰けるは、我儕に遇ざらん爲よ、彼の何處へ往んとする乎。ギリシヤお散し者お往てギリシヤに人お教んとする乎。彼が語て爾曹とと尋るとも遇べらず。又足が在所へ爾曹來ること能ざる可と曰、言の何ぞや。○節筵に未だ大日おイエス立て呼り曰ける、人も、渴バ我よ來て飲。我と信する者の聖書お録し、如く其腹より活る水、川に如お流出べし。如此いへる、彼と

信する者に受んとせむる靈と指るあり蓋イエス未だ榮と受ざるに因て靈い  
 まだ降ざるにあり 民に中て多し人みれば言と聞て此の誠を彼預言者あ  
 りと曰 或の斯のキリストありと曰あるひのキリストのガリラヤより出  
 べけんや 聖書おキリストにダビデに裔てダビデの住し郷ベツレヘム  
 より出んと録しよみ非すやと曰 是に於て民も彼を縁て争ひ別たり  
 ろに中お彼と執んとせむる者も有けきを措手せし者なりき 下吏も祭  
 司に長とパリサイの人等と所お返けきば彼等下吏お曰けるに何ぞ彼と曳  
 來らざる乎 下吏もたへて曰けるに未だ斯人は如く言し人あらず ぱり  
 サイに人いひけるに爾曹も亦感さる一乎 有司とパリサイに人の中お  
 彼と信する者あらんや 律法と識ざる此衆に人の罰をべき者あり 五  
 中一人おて夜イエスお就しニコデモと云る者のをらお曰けるに 其人  
 お聽ず其行と知ざる先お其罪と定るに我儕は律法あらん乎 彼等もたへ  
 て曰けるに爾も亦ガリラヤより出し者あるの考見よ預言者のガリラヤよ

り出るものとあり 是に於て各人家お歸せり

第八章 イエス橄欖山お往り 昧爽また聖殿お入けるが民みる彼も來けき

を坐て彼等と教ふ 爰お奸淫と爲るとき執らる一婦ありけるが學者とパ

リサイの人みきとイエスの所も曳來り群集の中お置云けるに 師よ此婦の

奸淫と爲とる時ろのまゝ執らる一者あり 此に如き者と石にて擊殺すべ

しとモーセ律法の中お命じさる爾の如何お言や 如此いへるにイエスと

試て証の由と引出さんと欲るありイエス身と屈め指めて地お畫り 彼等

お切お問およりイエス起て之お曰けるに爾曹のうち罪あき者まづ彼と石

にて撃べいと曰 又た身と屈て地お畫り 彼等みきと聞て其良心お責ら

る老者とはじめ少者まで一々お出往たにイエス一人のゐる婦の集れ中お立

り イエス起て婦お曰けるに婦よ爾と訟し者の何處へ往しや爾の罪と定

る者あき乎 婦いひけるに主よ誰もあしイエス彼お曰けるに我を爾の罪

と定ず往て再び罪と犯そ勿き 〇 イエスまた人々お語て曰けるに我の世



の光あり我れ我れ從ふ者ハ暗中と行す生の光と得あり 是ハ於てパリサイの  
 人ハいひけるハ爾ハ自ら己レ證とあせり爾の證ハ眞ならず イエス答て曰  
 けるハ我レをばら己の證とるども我證ハ眞あり蓋レを何處より來り何處  
 へ往と知バかり爾曹也ガ何處より來り何處へ往と知ざるあり 爾曹ハ肉  
 且循て人レ罪と定む我ハ人レ罪と定ず 我も一定め我定る所ハ眞あり蓋  
 且を獨あるハ非ず我と遣一父と同ハ在をあり 二人レ證ハ眞ありと爾  
 曹レ律法ハ録さきたり 且夕證とる者ハ我あり我と遣し父も亦且  
 證と爲あり 彼等ハいひけるハ爾レ父ハ何處ハ在ヤイエス答けるハ爾曹と  
 我と識ず亦且ガ父とも識ざるあり若且と識るハらバ我父とも識たる  
 ならん イエス此等レみと殿レうち襄錢レ箱と置る處にて語けきと彼  
 レ時イまだ至ざきバ誰も手と出そ者ありき イエス復ハいひけるハ我レ  
 ろん爾曹ハ我と尋べ一爾曹ハレを乃罪ハ死ん我レゆく所へハ爾曹きたる工  
 と能ざるあり 之ハ由てユダヤ人ハいひけるハ我レゆく所へ爾曹きたるふと

能ずと言リ彼ハ自殺せんとそる乎 イエス彼等ハ曰けるハ爾曹と下より  
 出且きの上より出あんぢらハ此世より出且きの此世より出す 是故ハ爾  
 曹ハ己レ罪ハ死ん我レいひ一あり爾曹もし我レ彼あるを信ぜずハ己レ罪  
 且死ん 彼等ハいひけるハ爾ハ誰あるヤイエス曰けるハ我ハ實に我あんぢ  
 らハ告る所レ者あり 我あんぢらハ就て語る可ふと罪と定む可ふと多端  
 あり我を遣し者ハ眞あり彼ハ聞一事と我世ハ告 此ハ父と指て言るハ  
 且彼等の知ざりき 是故ハイエス彼等ハ曰けるハ爾曹人レ子と舉しの  
 ち我レ彼あると知また我レをばら何事をも行ず惟且ガ父レ教ハ從ひて此  
 等ハ事と言ると知べし 我と遣し者我と同ハあり父と我と獨遣たまハ  
 ず蓋且を恒ハ彼レ心ハ適ふ事と行へをあり イエス此事と言るとき多レ  
 入のきと信ぜり イエス己と信ぜしユダヤ人ハ曰けるハ爾曹もし我道ハ居  
 バ誠ハ我弟子あり 一ハ真理と識ん眞理ハ爾曹ハ自由と得さそべし 彼  
 等ハたへけるハ我儕ハアブラハムレ裔ナリ未だ人レ奴隸と爲しことあり

爾曹ニ自由ニ得スさすべしと爾レ言フ一ノ如何カある事ヲ イエスハ彼等ヲ曰クけるニ誠ニ實ニ爾曹ヲ告グん凡テ惡ク行フ者ノ惡ニ奴隷ニあり 奴隷ノ恒ニ家ニ居スず子ノ恒ニ居ス是故ニ子モ爾曹ヲ自由ニ賜ヘバ爾曹ハ誠ニ自由ニ得クべし 我ハあんぢらガアブラハムレ裔ニあると知スされども我ハ殺スさんと謀ル蓋シわが道ハあんぢらレ裏ニ在リざきを也 我ハ吾父ト偕ニ在テ見ル一ニと行クあんぢらノ爾曹レ父ト偕ニ在テ見シよと行ク 彼等ハたへてイエスハ曰クけるニ我ハ爾曹ヲ父ノアブラハムハありイエスハ曰クけるニ爾曹モ一ノアブラハムニ行クばアブラハムレ行クとあみあふべし 然ルも今ハあんぢらノ神ハ聞ク一ノ眞理ト告グる我ト殺スさんと謀ル是レアブラハムレ行クば非ズ 爾曹ノ爾曹レ父レ行クとあみあふ也ノをら曰クけるニ我ハ爾曹ノ奸淫ニ由テ生ズ只一人レ父ハあり即チ神あり イエスハ彼等ヲ曰クけるニ神モ爾曹レ父ハあらを爾曹ト愛スそべし我ハ神より出テ來キをあり夫レ己ハ由テ來ル非ズ神ト遺シ給ヘるあり 爾曹ハんぞ我ハいふ言ト知スるや蓋シわが道ト聽ムと

と得スざきを也 爾曹己ノ父ハある惡魔より出テまた其父レ怨ムと行クふとを欲スむ彼ハ始ヨリ人ト殺ス者あり又眞理ハ居ス蓋シをば裏ニ裏ニ眞理ハけきバ也ノが証ト言ヒき己ハより出テ言ヒる蓋シをば証者また証者父ハをバ也 是レ眞理ト言ヒ因テ爾曹ト言ヒ信ゼズ 爾曹レうち誰ハ我ト罪ハ定ムる者ある乎ト爾曹ハ眞理ト語ル何故ト言ヒ信ゼざる乎 神より出テ一者ノ神レ言ヒ聽クあんぢらレ聽クるノ神より出テ出テざるハ因テあり ユダヤハ人ハたへて曰クけるニ爾ハサマリヤハ人ハて鬼ハ憑ル者ありと我ハ爾曹ハ言ヒるニ宜ナらず乎 イエスハ答テ曰クけるニ我ハ鬼ハ憑ル者に非ズ我ハ吾父ト尊ビ爾曹ノ我ト輕ンずる也 我ハ自己レ榮ヲ求メず之ト求ムつ罪ヲ定ムる所レ者あり 是レ誠ニ實ニ爾曹ヲ告グん人モ一ノ我道ト守ラを窮ムく死ト見クざるべし ユダヤハ人ハのき曰クけるニ今ハわきらハ爾ガ鬼ハ憑ル者あると知スアブラハムハ既ニ死シた預言者も死リ然ルも爾ハいふ人モ一ノ我道ト守ラを窮ムく死シと 爾ハ我ハ先祖アブラハムよりも優シる者あらん乎ア



斯る奇跡と行ふことと得んや是は於て彼等あらそひ別たり 又また替者よ  
 曰けるの爾の目と啓しよより爾の色をの事と何と言や答けるの彼の預言者  
 あり 十八 ユダヤ人の色の替者ありしを見得やう爲しよと其二親を呼來る  
 までの信ぜず即ち二親と呼來りて 之に問けるの此人の替者おて生しと  
 言どふろの爾曹れ子あるの今いりあして見よと得たる乎 二十 二親の色らあ  
 答けるの此の我子あると生來の替あることと知 然ど今如何して目明あ爲  
 する我儕みよと知す亦それ目と啓し誰ある乎と知す彼の年長あり彼よ  
 問よ彼とづら言べし 二親は如此いひしにユダヤ人と懼しあ因るのイ  
 エスとキリストと言明そ者あらば會堂より出せべしとユダヤ人がひあ  
 議定とを也 二親の彼の年長あり彼よ問よと言しに此故あり 替あり  
 し者と復よびて曰けるの榮を神あ歸せよ我儕の彼人れ罪人あると知  
 る答けるの罪人なるや否と之と知す我の替者ありしよ今日明あなる  
 此一事と知 彼等また曰けるの彼は爾あ何と行いや如何して爾れ目と啓

しや 答けるの我すでお爾曹あ言しお爾曹きかぞ何故ふとよび聞んどそ  
 るの爾曹も其弟子あ爲んと欲ふや 二八 のきら語り曰けるの爾の其人れ弟子わ  
 くらんモーセれ弟子あり 神れモーセお語り言の我儕しきり然ど此人の  
 何處より來る乎と我儕しらす 其人あさへけるの此の奇き事あり彼そで  
 お我目と啓しお其何處より來ると爾曹考らずと曰 神の罪人あ聽す然  
 ど神を敬ひて其旨あ遵ふ者あの聽たまふと我儕の知 世の元始より以來  
 うまさけきある替者の目と啓し人あると聞す もし此人神より出ずば何  
 事とも行得ざるべし 彼等あさへて曰けるの爾の盡く罪孽あ生し者ある  
 お反て我儕と教るか遂お彼と逐出せり 彼等が逐出しよと聞イエス  
 尋て之お遇いひけるの爾神れ子と信する乎 答て曰けるの主よ彼とて  
 我信すべき者の誰あるや イエス曰けるの爾をてお彼とをる今あんと  
 言者のいろきあり 主よ我信すと曰て彼と拜せり イエス曰けるの我審判  
 せん爲お世あ臨る即ち見ざる者として見え見る者よ反て替と爲しむ

エスと借ひ居り一パリサイ人みれ言と聞て彼曰ける我儕も替ある平  
 四一 イエス彼等曰ける爾曹も一替あらば罪あかるべし然と今日きら見  
 と言し因て爾曹の罪の存きり

【註】 誠實に實は爾曹に告ん羊牢に入ら門よりせずして他より踰る者の竊  
 賊あり強盜なり 門より入者の其羊の牧者あり 門守の彼れ爲お啓き羊  
 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

そこの聲と聽る己れ羊の名と呼て之と引出そ 彼らの羊と引出すとき  
 先に行あり羊のそれ聲と識て之お従ふ 羊は別人お従はず反て避るの別  
 人の聲と識さば也 イエス彼等お此譬と言て彼等のろれ語をる所の  
 ある意かど知ざりき 是故おイエス復るをらお曰ける誠實に爾曹よ  
 告ん我の即ち羊の門あり 凡て我より先お來し者の竊賊あり強盜なり羊  
 ろれ聲と聽ざりき 我の門あり若人おをより入ら救き且出入とあして草  
 と得べし 竊賊の來るの盜んどし殺さんとあ滅さんとあるれ他あし我を  
 たるの羊として生と得るつ豊あらしめん爲あり 我の善牧者あり善牧者

の羊れ爲お命と捐 牧者おあらず己が羊と有す只やとひきて羊と守る者  
 は狼來ると見きバ羊と棄ておぐ狼羊と奪て之と散そ 雇工れ逃るの備  
 せし者あれば其羊と顧ざるお因てあり 我の善牧者おて己れ羊と識ま  
 己れ羊お識る 父おをよと識おとく我も父と識れ羊れ爲お命と捐ん 我  
 の此牢おあらざる別れ羊と有り彼等とも引來らん彼等おが聲と聽ん遂お一  
 の群一れ牧者おあるべし 己が父おをよと愛す蓋おを再び命と得んお爲お  
 命と捐るお故あり 我より之と奪ふ者おし我みぼおら之と捐るあり我こ  
 きと捐るれ權能あり亦よく之と得の權能あり吾父より我おれ命令と受  
 十九 備おれ言お因て復ユダヤ人あらるひ別さり 其中ある多れ人いひけ  
 るの鬼お憑て狂ふ者あるお何ぞ彼お聽や 又或人いひけるは是鬼お憑を  
 し者の言お非ず鬼の替者れ目と啓るおと能せん乎 冬れある修殿節  
 二十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

は時 イエス殿のソロモンれ廊と行きけるお ヌダヤ人あをよと環圍て  
 曰けるの我儕を幾時まで疑するや爾もしキリストあらば明ろお我儕よ

告よ 二五 イエス答けるの我あんぢら告しかごも爾曹信ぜず父れ名お託て  
 我の行ふ事とを就て證するあり 二六 然と爾曹信ぜず此之爾曹お言し如く  
 我羊の非ざるをば也 二七 我羊の我聲を聴きよの彼等と識るをら我の從ひ 二八  
 我彼等永生と賜ふ彼等いけまでも亡びず亦よと我手より奪ふ者あ  
 る者あり 二九 我と彼等と賜し吾父の萬有よりも大あり又父れ手より之と奪う  
 んとせり 三〇 イエス彼等お答けるの吾父より受て我おほくは善事と爾曹お  
 示さお其うち何の事およりて我と石よて撃んとそる乎 三一 ユダヤ人ふたへ  
 て曰けるの石おて撃んとそるの善事の爲に非ず爾と褻瀆ことといひ且  
 なんぢ人あるお己と神とあるお因てあり 三二 イエス答けると爾曹は律法お  
 我いふ爾曹の神ありと録さよ志お非ずや 三三 聖書の毀る可らず若神の命と  
 奉し者を神と稱んおと 三四 父の聖別ちて世お遣志る者よをの神れ子ありと  
 稱バとて何ぞ之と褻瀆ふことといふと曰べけん乎 三五 もし我れが父の事と行

すバ我と信ざるふと勿き 三六 若よきと行バ我と信ぜずとも其事と信ぜよ蓋  
 父の我あり我の父お在ふとを爾曹志りて信ぜんが爲あり 三九 彼等また執  
 んと志さりしがイエスろは手と脱て去り 四十 斯て復ヨルダンの外あるヨハ  
 テのバプテスマと施志る所お往て彼處に居けるお 四一 多の人よをよ至り曰  
 けるのヨハテは休徴と行す然ごも此人おけきてヨハテのいひし言のみあ  
 り 四二 是お於て許多の人おしよふて彼と信ぜり

第十一章

茲お病者ありラザロと云てベクニヤれ人ありベクニヤのマリア  
 と其姉マルタは住る村なり 二 MARIAの義お主お香膏とぬり己の頭の髪を  
 もて主れ足と拭一人おて此病るラザロの彼お兄弟あり 三 是故おそれ姉妹  
 イエスの所お主れ愛する者病りと言遣せり 四 イエスこきと聞て曰けるの  
 此の死る病お非ず神は榮は爲あり神れ子として之お因て榮と得しめんが  
 爲あり 五 夫マルタと其妹およびラザロのイエスれ愛する所れ者あり 六 是  
 故よイエスろは病ると聞て此處よ二日とまほり 七 其れち弟子お曰けるの

我儕われらまゝユダヤユダヤお往やうべー 弟子でしいひけるらラビユダヤ人ユダヤ人の近來ちかも石いしも  
 て爾なんと撃うんとせしお復またのしむお往やうたまふ乎や イエス答こたへけるら一日いちにちは中ちゆうお  
 十二じふに時じあるお非あらずや人ひともし日ひ間かんあるおバ蹟つまずくおどあし蓋おほふは世よは光ひかりと見み  
 お因よてあり また人ひともし夜よるあるおバ蹟つまずくべし蓋おほ光ひかりろは人ひとお無なク故ゆゑあり  
 イエス如此かくいひて後のち弟子でしお曰いけるら我儕われらは友ともラザロラザロ寢いねたり我われのこゝと醒ささ  
 ん爲ためお往やうべし 弟子でしいひけるら主しゆよ彼かれもし寢いねしあらバ愈いへん イエスの彼かれ  
 は死しにしと言いへるらあきと弟子でし等らの寢いねて臥ふるおとの言いへるらならんと意おもひ 是この故ゆゑお  
 イエス明あきららお彼等かれらお告つげて曰いけるらラザロラザロの死しに 爾曹なんぢらとして信しんせしむる爲ため  
 お我われのしお在あらざりし喜よろこぶ然しかといま彼處かそこお往やうべー だトモと稱なづるトマ  
 ス他ほかは弟子でし等らお曰いけるら我儕われらも亦またゆきて彼かれと偕ともお死しにべし イエス至いたり  
 ザロの既すでお墓はらお葬ほうきて四よつ日かあるを知しる べタニヤはエルサレムお近ちかし其  
 距はたるおと約およろ廿七にじふしち丁ていあり 多おほのユダヤ人びとマルタとマリアを其お兄弟あやうだいは事ことお  
 因よて慰なぐさめんとて既すでお彼等かれらの所ところお來きたりときり マルタのイエス來きた給たまへりと

聞きて之これと出い迎むかへマリアはあは室むろお坐ませり マルタイエスお曰いけるら主しゆよ  
 此こゝお在あらせしるらバ我われ兄弟あやうだいの死しにざりしものト 然しかるがら假令たとひ今いまおても爾なんが  
 神かみお求もとむる所ところもは神かみあんぢお賜たまふと知しる イエス曰いけるら爾なんは兄弟あやうだいの甦よみがへ  
 るべし マルタイエスお曰いけるら彼かれが末すえ日ひの甦よみがへるべき時ときお甦よみがへらん事ことと知し  
 あり イエス彼かれお曰いけるら我われの復生よみがへりあり生命いのちあり我われと信しんずる者ものの死しにると  
 も生いべし 凡みなて生いて我われと信しんずる者もの之の永いつ遠とほも死しにるおとあし爾なんもと信しんずる  
 や 彼かれイエスお曰いけるら主しゆよ然しかる我われあんぢの世よお臨まるべきキリスト神は  
 子こありと信しんず 如此かくいひ竟おはり 潛ひそか其妹いもうとマリアとよび師しきたりて爾なんを呼よび  
 まへりト曰いふ マリア之とささ急いそぎ起たちてイエスお往やうり イエス未いまだ村むら  
 お入いり仍なほマルタは迎むかへ所ところおとれり マリアと慰なぐさめて偕ともお室むろお在あらしユダヤ  
 人ひとマリアが急いそぎ起たち出いでるらと見みて彼かれの墓はらお往やうて哭なげあらんと曰いふ つと彼かれお隨まへり  
 マリアイエスは所ところお來きたり彼かれと見みて其足あし下もとお伏ふいひけるは主しゆよ若ごとくお  
 在あらせしを我われ兄弟あやうだいの死しにざりしもはト イエスマリアは哭なげくと偕ともお來きたり

しユダヤ人は泣いて見て心と慟しめ身ふるひて 曰けるハ爾曹何處ニ彼ト  
 置しヤ彼等いひける主よ來て觀さまへ イエス涕と流たまへり 是ハ  
 於てユダヤ人いひける見よ如何をあり彼ト愛する者ヲ 爾中ある人  
 曰けるハ替者レ目ト啓たる此人ハ一して彼ト死ざらしむるハ能ざりし乎  
 三九 イエスマと心ト慟しめて墓ハ至る墓ハ掘りて其口ハ所ハ石ト置り  
 四〇 イエス曰けるハ石ト去よ死し者レ兄弟マルタ曰けるハ主よ彼ハとヤ臭し死  
 してより己ハ四日ト經たり イエス彼ハ曰けるハ爾もし信ぜバ神ハ榮ト見  
 べしと我ハんぢハ言しハ非ずヤ 遂ハ其石ト死し者ト置さる所より移去  
 たりイエス天ト仰きて曰けるハ父よ己ハ我ハ聽り我ハ見よと爾ハ謝す 我  
 ハんぢハ恒ハ我ハ聽よと知まらるハ我ハく言ハ傍ハ立る人ト一して爾ハ  
 我ト遣しとことと信ぜしめんこと也 如此いひて大聲ハ叫ひひけるハ  
 四一 ヲロよ出よ 死者布ハて手足ト縛れ面ト手巾ハて裏きて出 イエス彼等ハ  
 曰けるハ彼ト釋て行しめよ 四二 マリアト偕ハ來しユダヤ人イエスハ行し事

と見て多く彼ト信せり 然ども其中ハパリサイ人ハ往てイエスハ行し  
 事ト告し者あり 是ハ於て祭司ハ長等トパリサイ人ト議員ト召集めて  
 曰けるハ我儕如何をべき乎この人多クハ奇跡ト行あり 四三 もし彼ト此ま  
 又棄置を人トお彼ト信せん然ハ羅馬人ハきたりて我儕の地トも民トも奪  
 べし 四四 其中ハ一人ハて此歳ハ祭司ハ長なるカヤパト云る者彼等ハ曰ける  
 四五 ハ爾曹何トも知す 又民ハ爲ハ一人死て舉國ほろびざるハ我儕ハ益たる  
 事トも思ざる也 此言ハ己より出しハ非ず 四六 此歳ハ祭司ハ長あるハよりイ  
 四七 エスハ斯民ハ爲ハ死るハと預言せるあり 特ハ斯民ハ爲ハみあらず散  
 四八 たる神ハ子民等トも一ハ集んタ爲あり 偕ハ曰より者て彼等ハイエスト  
 殺さんと共ハ議る 是故ハイエス此より顯ハユダヤ人中ト行かず其處  
 四九 ト去て野ハ近き所あるエフライムトといふ邑ハ往て弟子ト偕ハ留り 五〇  
 五十一 ヲ人ハ逾越レ節ちのけき人々己ト潔んが爲ハ逾越レ節ハ前ハ鄉間  
 五十二 よりエルサレムハ上り 五三 イエスト尋ね殿ハ立て相互ハ曰けるハ如何ハ意



や彼は節筵いはいお來きたざる乎や 祭司さいしは長等ながたうとパリサイパリサイは人ひとと己おれお令めいと出いちて若もし  
 イエスは所在あきかと志こころる人ひとあらを告つべいと云いふの彼かれと執とらんと志こころる也なり  
 第一第一 逾越あがこしは節筵いはいは六日前むいかイエスベタニヤベタニヤお至いたる此處こゝに即すなはち死にて甦よみがりしラ  
 ザロザロは在所あるところなり 是こゝに於おいて或ある人々ひとの處ところにてイエスお筵席いすまのと設たまくマルタ  
 給仕きうじと爲なりラザロラザロもイエスと偕ともお坐ませる者のうちは一人ひとりあり マリアマリアの  
 眞正まことのナルダナルダある價あたいたるき香膏にほひあぶら一斤いちじんと携もちてイエスに足あしお塗ぬりた己おのが頭かしら  
 髪かみにて其足そのあしと拭ぬぐへり膏あぶらはほひ徧あまく室内いへのうちに満みちり 是こゝに弟子でしは一人ひとりあるイ  
 スカリオテイスカリオテのユダユダ即すなはちイエスと賣わたさんと志こころる者ものいひけるなり 此香膏にほひあぶらと何なに  
 ぞ銀ぎん三百さんひゃくお售うりて貧者へいしやに施ほさざる乎や 彼かれの如此かくいへるの貧者へいしやと顧かへみ非あらず竊ひそ  
 者ものおて且かつ金囊かねいれと帶おそは中うちに入いりたる物ものと奪うふ者ものなきべ也なり イエス曰いけるなり  
 彼かれお與ある勿なわ夕葬ゆふさうの日かは爲なるお之これと貯たくはへたり 貧者へいしやの常つねお爾曹にらそうと偕ともお在あれ  
 我われの常つねお爾曹にらそうと偕ともお在あらず 多おほのユダヤ人ユダヤ人イエスイエスの此こゝに在あると知しりて來きたる特たゞ  
 おイエスは爲なるのみお非あらず亦またろは死しより甦よみがらしむ所ところはラザロラザロとも見みんと欲おほ

るあり 祭司さいしは長等ながたうラザロラザロとも殺ころさんと謀はかる 蓋なほラザロラザロは故こゝに因よりて多おほく  
 ヌダヤ人ユダヤ人ゆきてイエスと信しんするがゆゑ也なり 明日あしたおほくの人々ひと節筵いはいお來きた  
 りイエスのエルサレムエルサレムお來きたらんと志こころるを聞き 櫻欄えいらんは葉はと取とりきて彼かれと迎むか  
 ホザナホザナよ主しゆは名なお託たくて來きたるイスラエルイスラエルは王わうの福ふくありと呼よびり 十四十四 イエス驢ろ  
 馬ばは子こと得えて之これお乗のり 録ろくしてシオンシオンの女むすめよ懼おそるゝ勿なを視みよ爾にらの王わうの驢馬ろば  
 子こお乘のりて來きたるとあるが如ごとく 弟子でしたち初はじめの此事このことと曉さざりしがイエス榮さかえ  
 受うけ後のちお彼等かれら此事このことの彼かれおついで録ろくさき且またろは事ことと人々ひと彼かれお行おこひたりしと  
 憶おもり起たせり イエスはラザロラザロと慕ほよ呼よび出いして甦よみがらしむ時ときのきと偕ともお居をりし  
 者ものとも證あかしと爲なり 十八十八 彼の休徵しよめいと行なしむこと聞きしは因よりて人々ひと彼かれと迎むかへるあり  
 十九十九 是こゝに於おいてパリサイパリサイの人々ひとたゞひお曰いけるなり爾曹にらそうの謀はかる所の益えきなきと知しる  
 や見みよ世よの皆みなかきお從したがへり 二十二十 禮拜らいはいのさめ節筵いはいお上のをる者ものは中ちゆうおギリシ  
 ヤヤの人ひとあり 彼等かれらガリラヤガリラヤ乃すなはちベツサイベツサイダダは人ひとあるピリポピリポお來きたり求もとめて曰いけ  
 るの君きみよ我儕われらイエスお見みえんよと欲ほふ 二三二三 彼かれら來きたてアンデレアンデレお告つげア

ンデレ亦ピリボと借ふイエスお告 二二 イエス彼等よ答て曰けるハ人の子  
 榮と受べき時いたきり 二三 誠お實お爾曹お告ん一粒は麥も一地お落て死す  
 バ惟一おて存んも一死バ多の實と結ぶべし 二四 され生命と惜む者之と喪  
 ひ其生命と惜ざる者之と存て永 二五 生お至るべし 二六 人もし我お事んとせば  
 我お徒ふべし我お事する者之我とる所お在ん人も一我お事さば吾父之と貴  
 ぶべし 二七 今おが心憂悼めり何と言んや父よ此時より我と救たまへと言ん  
 の否みきが爲お我お此時お至るあり 二八 願くハ父よ爾の名は榮と顯せ此  
 とき天より聲ありて云を其榮と既お顯を再みきと顯をべし 二九 傍お立る  
 人々こそと聞て雷ありて曰ある人ハ天の使者ありきお語る也と曰り 三〇  
 イエス答て曰けるハ此聲は我ためお非す爾曹は爲あり 三一 斯世ハいま罪お  
 定らる斯世は主ハいま逐出さるべし 三二 我も地より擧るありバ萬民を引て  
 我お就せん 三三 如此イエスハ言るハ其如何ある狀おて死んとそると示せる  
 也 三四 人々ありきお答て曰けるハ我債律法おてキリストハ窮なく存者ありと

聞まお爾人ハ子ありらず擧きんと言ハ何や此人ハ子とは誰ある乎 三五  
 エス彼等お曰けるハあほ片時ハあひだ光あるぢらと借おあり光ある間お  
 行て暗お追及きざるやう爲よ暗お行く者ハ其行べき方と知す 三六 あんぢら  
 光ハ子と爲べきためお光ハある間お光と信ぜよイエス此と言畢り彼等と  
 避て隠たり 三七 イエス彼等ハ前お如此おほくの休徴と行たきども尙ありき  
 と信ぜざりき 三八 此ハ預言者イザヤがいはし言お我債の告一言と信ぜし者  
 ハ誰や主ハ手ハ誰ハ顯をし乎と有應へり 三九 イザヤ復いふ彼等目おて  
 見心おて悟り改めて醫るゝみとと得ざらんが爲お彼らハ目を瞽し其心と  
 頑梗せりと此故ハ彼等信するまど能す 四〇 イザヤハ彼ハ榮と見一により彼  
 お就て如此ハ語をるあり 四一 然と有司等ハ中お多く彼を信ぜし者も有志ガ  
 パリサイ人ハ人と畏て明お信すると言ざりき其會堂より驅らきんあどと恐  
 さるお因 四二 みき彼等ハ神の榮より人ハ榮と喜るあり 四三 イエス呼り曰け  
 るハ我と信する者ハ我と信するお非す我と遣しゝ者と信するあり 四五 又と

きて見者の我と遣し者と見なり 我の光あして世に臨り凡て我を信  
 する者として暗し居ざらしめん爲なり 人もし我が言を聞て守らざると  
 も其罪と定そ我來しの世の罪と定んさめお非ず世と救んため也 我と棄  
 ぶ言と納ざる者は罪と定る者あり即ち我いひし言のりは日みきが罪  
 と定べし 蓋わき己より言お非ず我と遣し父とが言べきこと我らる  
 可みと命と給へる也 子の命と給ふ所の即ち永 生あるを我しる是故  
 我いふ所の父は告給ふまふ言るあり

躑越は節は前おイエス此世と去て父に歸るべき時いたるをし  
 り世は在し己は民と既お愛し終お至るまで之と愛せり 時お彼等晩飯は席  
 おつく悪魔のあねてイエスと賣んとそる事とシモンは子イスカリヤテは  
 エズといふ者は心お發さちめたり 三 イエス己の手お父は萬物と賜しんど  
 と神より來り神お歸るみとと知 晩飯は席と起て上衣とぬぎ手巾と取て  
 腰お束 而して盤に水といき弟子の足と濯ろは束さる手巾おて拭とじめ

六 遂おシモンペテロお及ぶペテロ彼お曰ける主よ爾ら足の濯ふら  
 イエス答て曰ける我爲みと爾いま知す後こそと知べし 八 ペテロ彼お  
 曰ける爾斷て我足と濯べあらすイエス答ける若と濯と濯ずバ爾の  
 我と干渉あし 九 シモンペテロ彼お曰ける主よ止お我足はとあらす手と  
 首とも濯とまへ 十 イエス曰ける濯たる者の足は濯ふお及ず然して  
 全く潔し爾曹と潔し然とも盡くの潔者お非ず 此のイエス己と賣んとす  
 る者は誰あると知ゆるお盡くの潔者お非ずと曰るあり 彼等は足を濯し  
 後ろは上衣と取まふ坐て彼等お曰ける我らちらお行し事と知ら 爾  
 曹とと師と呼まふ主と呼らちらの言とみろの宜と色の誠お是あり  
 我の爾曹は師また主あるお尙らちらの足と濯ふ爾曹も亦とがひお足と  
 濯ふべし 我らちらお例と示せり此の我らちらお行し如く爾曹も  
 行しめんが爲なり 是を誠お實に爾曹お告ん僕ら其主より大あらす又使  
 者ら之と遣す者より大あらす 爾曹もし之と知て此の如く行バ福あり

我いひし所の爾曹と凡て指るに非ず我と我選し者と志る然きをも聖書  
 我と借お食する者とを背て踵と擧しと録さきしお應せん爲あり  
 事比至らん時あんぢら我と信じてキリストとせん爲お其事の至ざる今よ  
 り之と爾曹お告 誠お實に爾曹お告ん我遣を者と接るの我と接るあり我  
 と接るの我と遣えし者と接るあり 一 二 三  
 けるの誠お實に爾曹お告ん一人なんぢられ中お我と賣者あり 弟子たち  
 互お面と觀あとせ誰と指て言るある乎と疑ふ 一 二 三  
 子イエスは懷お倚てありしが シモンペテロ此の誰と指て言るある乎を問し  
 めんど首ともて示せり 一 二 三  
 誰あるの 一 二 三  
 一撮お食物お物と濡てシモンは子イエスカリヲテ乃エダお予ふ 彼  
 一撮お物と受し其時サタン彼又入り是お於てイエス彼お曰けるの爾が爲んど  
 する事は速らお爲せ 彼お何故お如此いひしのと同お席お在者ともれ中志

る者あらざりき 或人エダの金囊と職をる故イエス彼として節筵おつ  
 て用べき物と市しむるあらん亦の貧者お施さしむるあらんと意り 一 二 三  
 めきの一撮お食物と受て直お出より時之既お夜ありき 彼は出後イエ  
 ス曰けるの今人れ子榮とらく神また彼お因て榮と受るあり 神もし彼お  
 因て榮と受る時は神も亦とづのらの榮れ中お彼と榮しむ直お彼と榮志め  
 ん 小子よ我おほ片時あんぢらと借おあり爾曹お色を尋ん我ゆく所又爾  
 曹の至るもと能し前お之とエダヤ人おいふ今また之と爾曹お告 色新  
 誠と爾曹お予ふ即ち爾曹相愛すべし 一 二 三  
 く爾曹も相愛せべし 爾曹も相愛せば之又因て人々爾曹の我弟子ある  
 ことと知べ志 シモンペテロ彼お曰けるの主いづへ往給ふやイエス彼  
 に答へけるの我往どころへの爾いま從ふもと能す後と色お從せん 一 二 三  
 口彼お曰けるの主よ何故お今あんぢら從ふもと能ざるの我の爾れ爲お我命  
 と捐ん 一 二 三  
 イエス彼又答けるの爾命と我ためお捐るや誠と實お爾お告ん 一 二 三

あるざる前まへに爾なんぢ三次さんじと見みて識しすと云いはん  
 家いえおと第宅だいたくおやし然しからずを我われ預あづかりて爾曹なんぢらお之これと告つげべきあり我われあんぢらに爲なる  
 所ところと備そなへ往ゆく三さんもし往ゆて我われあんぢらに爲なる所ところと備そなへ又またさりて爾曹なんぢらと我われ  
 納うべし我われとる所ところも爾曹なんぢらとも居ゐしめんとて也なり四よ爾曹なんぢらが往ゆる所ところと知しる途みちと知し  
 途みちと知しトマス曰いける主まよ我われ儕らあんぢの往ゆる所ところと知しず何いかして其途みちと知し  
 んや六むイエス彼かれ曰いける我われの途みちあり眞まことあり生命いのちあり人ひとも我われよ由よらざる  
 を父ちちに所ところお往ゆる能あたはず七しち若もあんぢら我われと識しる吾父わがちちとも識しべし今いまより爾曹なんぢら  
 られと識しるあり已すでに爾曹なんぢら彼かれと見みたり八はちピリポ彼かれ曰いける主まよ我われ儕らお父ちちと  
 示あし給たまへ然しかるを足たり九くイエス彼かれ曰いける我われの久くく爾曹なんぢらと偕ともにお在あり  
 し我われ未いまだ我われと識しざる我われと見みし者ものの父ちちと見みしあり何なんぞ父ちちと我われ儕らお示あせと  
 言いや十じゅう父ちちおとり父ちちに我われお在あると信しんぜざる手てと見みる爾曹なんぢらお語かたり言いひ自みづから  
 ら語かたりしお非あらず我われおとる父ちちうれ行ゆくとあせる也なり十一じゅういち我われの父ちちおとり父ちちと見みる

我われのげし言ことと信しんぜよ若も信しんぜずを我われ事ことお因よりて之これと信しんずべし十二じゅうに誠まことにお實まことにお爾曹なんぢら  
 お告つげん我われと信しんする者ものの我われ行ゆくところの事ことと行ゆん且かつ此こゝより大おほいなる事ことと行ゆべし  
 蓋なわき吾父わがちちへ往ゆるあり十三じゅうさん爾曹なんぢらすべて我われ名なを託たくして求もとふ所ところれいと我われをべて  
 之これと行ゆん父ちちの榮さかれ子こお因よりて顯あらはせんが爲ためあり十四じゅうし若もあんぢら何なん事ことおても我われ名なお  
 託たくして求もとふ我われみきと行ゆん十五じゅうご若もあんぢら我われと愛あいするあらを我われ誠まことと守まもり十六じゅうろく  
 き父ちちお求もとふ父ちちかあらず別べつにお慰なぐさめる者ものと爾曹なんぢらお賜たまひて窮あく爾曹なんぢらと偕ともにお在あるむ  
 べし十七じゅうしち此こゝの即すなはち眞理まことは靈たまあり世よを接あはさるるも能あたはず蓋なわきと見みず且かつあら  
 ざるお因よらざる爾曹なんぢらの之これと識しるの彼かれあんぢらと偕ともにお在あるのゆゑ爾曹なんぢらに裏うらにお在ある  
 らあり十八じゅうはち我われあんぢらと捨すてて孤か子ことせず再またあんぢらにお就きん十九じゅうく暫しばらくせを世よを  
 と見みることもし然しかる爾曹なんぢらと我われと見みるを生いくを爾曹なんぢらも生いん二十じゅうにろれ日ひにお爾曹なんぢらと  
 き吾父わがちちお在あるんぢら我われお在あると見みる爾曹なんぢらに在あると知しべし二十一じゅういち我われ誠まことと有あちて之これと  
 守まもる者ものの即すなはち我われと愛あいするあり我われと愛あいする者ものの吾父わがちちお愛あいせらるる我われも亦またあき  
 と愛あいして彼かれお自己みづから示あすべし二十三じゅうさんイスカリヲテあらざるユダ彼かれ曰いけるの



事と爾曹お陪るの我が喜あんぢららお在て爾曹は喜と盈ちめんが爲あり 我  
 あんぢららと愛する如く爾曹も亦たがひお愛すべし是とが誠なり 人ら  
 友の爲お己れ命と捐るの此より大ある愛のるし 凡て我あんぢららお命す  
 る所の事と行の則ち我友あり 今より後とて爾曹と僕と稱す蓋僕の其  
 主は行ふとと知さきをあり我をきお爾曹と友と呼り我あんぢららお吾父よ  
 り聞し所のものと盡く告しお縁 あんぢらら我と選す我あんぢららと選べり  
 且爾曹として往て實と結せ其實と存しめんが爲また爾曹は凡て我名お託  
 て父お求ふ所の者と彼として爾曹お賜らせんが爲お我あんぢららと立さり  
 七 あんぢらら互に愛せんがため我をきと命す 世もし爾曹と惡とをの爾曹  
 よりも先お我と惡と知 爾曹もし世の屬あらを世の己れ屬と愛をべし然  
 せ爾曹の世は屬あらず我あんぢららを世より選たり之お因て世あんぢらら  
 惡む 僕の其主より大あらずと我あんぢららお曰し言を心お記よ人もし我  
 を窘迫を爾曹とも窘迫もし我言と守を爾曹は言をも守るべし 然と彼等

の我を遣し者と誦ざるお因と名れ故ともて此等此事と爾曹お加べし  
 我もし来て語ざりあらば彼等罪なからん然と今其罪いひひらく可  
 やうあり 我と惡む者の亦お父とも惡なり 我もし他れ人に行ざりし  
 事と彼等れ中お行のざりあらば彼等罪あらん然と我と吾父と己お  
 見の何之と惡めり 此は如の彼等は律法お故なくして我と惡めりと録し  
 言お應せん爲あり 且と訓慰師と父より遣らん即ち父より出る眞理は靈  
 あり其きたる時とが爲お證とあすべし 爾曹も亦とを借に始より在し  
 お因て證と作べし

且と此等れ言と爾曹お語するの爾曹は礙あざらん爲あり 衆人

あんぢららと會堂より顯くべし且とをべて爾曹と殺す者とつらら神お事ると意  
 ふ時至らん 此等れ事と爾曹お行の父と我とと識ざるが故なり 我お  
 きて爾曹お語するの時いたりて我をきと言し事と爾曹は憶起ん爲あり曩  
 お之と爾曹お語ざりある我あんぢららと借お在るべき也 我いま我と遣し

者お往んとす然と爾曹は中見を何處へ往と問る者なく 反て我みの事  
 と言しお因て憂あんぢら心は盈り 七 是は眞と爾曹お告ん我往の爾曹の  
 益なり若由のすバ訓慰師あんぢら多ふ來じ若ゆのバ彼と爾曹お遣らん 八  
 き來らんとき罪おつき義おつき審判おけき世と考て罪ありと曉志めん 九  
 罪お就てと云るの我と信ぜざるお因てあり 義お就てと云ると我と父  
 へ往およりて爾曹まゝ我と見さるバ也 審判お就てと云るの斯世は主  
 審判と受さるあり 我は爾曹お多く語る可も有ども今あんぢら曉み  
 とと得ず 然と彼するのち眞理は靈は來らんととき爾曹と導きて凡の眞理  
 と知しむべし蓋の己お由て語お非ず其聞し所は事と爾曹お言まゝ來ら  
 んとそる事と爾曹お示せばけさバ也 彼は榮と顯さん蓋はが屬と受て  
 爾曹お示せば也 凡て父の有給ふもれの我屬あり是故お彼わが屬と受て  
 爾曹お示すと曰り 暫せば爾曹見と見じ復考を去くして我と見るべし  
 是と父へ往あり 是お於て弟子の中おて或人おがひお曰けるの暫せ

を爾曹見と見じ復考を去くして我と見べしと言ふのは父へ往る  
 りと我儕お言し之何は事や 彼等まゝ曰けるの此志を去くと言し何  
 の事や其言る所と我儕知す イエス彼等が問んとそると知て曰ける  
 の暫せば我と見じ復考を去くして我と見べしと言し此事お因て爾曹たが  
 ひお詰あふ乎 誠お實は我あんぢらお告ん爾曹の哭き哀と世の喜ぶべ  
 し爾曹憂るあらん然と其憂の變て喜びとあるべし 婦子と産んとそる時  
 の憂ふ其期いたるお因てあり然と己お生バ前の苦ととそる世に人は生た  
 る喜樂お因てあり 此の如く爾曹も今憂ふ然と我また爾曹と見ん其時あ  
 んぢら心喜ぶべし其喜樂と奪ふ者あらじ 其日あんぢら我お問とみろ  
 無るべし誠お實に爾曹お告ん凡る我名お託て父お求る所はもれ父お見と  
 爾曹お授たまふべし あんぢら今まで我名お託て求ゑるおとあし求よ然  
 ば受ん而して爾曹は喜び滿べし 譬喩とめて此事と爾曹お語しダ譬喩と  
 用ずして爾曹お語り父お就て明あお示す時いたらん 其日あんぢら我名



お託て求ん我あんぢら此爲お父お求ふと曰ず 蓋父みづゝら爾曹と  
 愛すを也これ爾曹と愛し且父より我來しよと信するお因 己を  
 父より出て世お臨きり復世と離て父お往ん 弟子の色お曰けるの爾いま  
 明のお言て譬諭といとず 我儕いま爾の知ざる所あく且人れ爾お問の用  
 むきよとと知るよお因て我儕神より爾れ出來しよと信す イエス彼  
 等お答けるの今あんぢら信する乎 時まさお至ん今いたりぬ爾曹散て各  
 人ろれ屬する所お往さ 我一人れこさん然を我獨とるお非ぢ父己と  
 借よ在あり 己此事と爾曹お語しぬ爾曹として我お在て平安と得させ  
 んが爲なり爾曹世お在ての患難と受ん然を懼るゝ勿を我すてよ世お勝り  
 イエス 此言と語畢て天と仰ぎ曰けるの父よ時いさりぬ爾れ子あ  
 んぢら榮と顯さんお爲お爾れ子の榮と顯し給へ 己を爾れお賜し所れ  
 者お我永生と予んぐとめ凡れ者と制る權威と我お賜たをバ也 永生  
 との唯獨の眞神ある爾と其遺志とイエスキリストと志る是なり 我あん

ぢら榮と世お顯し爾れ我に委し所の行の我よと成り 父よ今我と考て  
 爾と借お榮と得させ給へ即ち創世より先お爾と借に有し所の榮と得させ  
 給へ 己あんぢ世より選て我お賜し人々お我あんぢら名と顯せり彼等の爾  
 れ屬おして爾よと己お我に賜ふ彼等また爾れ道を守り 彼等いま爾  
 の我よ賜し者の皆爾より出あど知 蓋己を爾が我お賜し言と彼等お予と  
 色バなり彼等みれと受まお我爾より出し事と誠お知の何爾の我と遺志と  
 むとと信じさり 我の色られ爲お祈る我祈るは世の爲お非ぢ爾れ我お賜  
 志者の爲ある耳るを彼等の爾れ屬あをバ也 凡て我屬の爾の屬あんぢら  
 屬の我屬あり且己を彼等お由て榮と受 己を今より世お在す彼等の世お  
 とり我の爾お就る聖父よ爾れ我に賜し者と爾れ名よ在しめ之と守て我儕  
 此如く彼等とも一よみし給へ 我の色らと借に在し時り色らと爾れ名お  
 在しめて之と守たり爾れ我お賜し者と我守りしが其中一人だお亡ぶる者  
 むし唯沉淪れ子ほろびさり是聖書に應せん爲あり 我いま爾お就る我世

在て此事を語るに我喜樂と彼等も充ちめん爲あり 十四 わき爾は道と彼  
 等も授たり世の彼等と惡む蓋はが世の屬も非ざる如く彼等も世は屬も非  
 ざる也 十五 且れ爾も彼等と世より取まへと祈らず惟かきらと守て惡  
 陷らす勿きと祈る 十六 且世の屬も非ざる如く彼等も世は屬も非ず 爾の  
 眞理をもて彼等と潔め給へ爾は言の眞理あり 十八 なんぢ我と世も遣しと如  
 く我も彼等と世も遣せり 十九 我をばらば爲お自己と潔き眞理も因て彼等  
 は聖らばん爲あり 二十 我と彼等の爲おはみ祈らず彼等の教も因て我と信  
 する者ば爲おも祈あり 二十一 此のみみ一おならん爲あり父よ爾はきお在われ  
 亦あんぢお在かくの如く彼等も我儕ををりて一おあらん爲り何世として  
 爾の我と遣しと事と信ぜしめん爲あり 二十二 爾は我お賜し榮と我をばらば授  
 たり此の我儕は一あるが如く彼等も互に一おあらん爲なり 二十三 且世として爾は我を遣し  
 在あんぢ我おとる蓋彼等として一お全あらしめ且世として爾は我を遣し  
 ありと又あんぢ我と愛する如く彼等とも愛することと知しめんと也 二十四 父

よ爾は我お賜し者の我とる所お我と借も在て我榮するはち爾も我お賜し  
 者と見んみと願うの世基と置ざりし先お爾わきと愛したき也 二十五 義き  
 父よ世の爾と識す我の爾を識るをらも爾は我と遣しと事と知り 二十六 我あん  
 ぢの名と彼等お示せり復みと示せん蓋あんぢは我と愛するの愛をばら  
 ば在まも我をばらに在ん爲なり

第十八章

處おある園の中お弟子と借も入ぬ 一 イエスと賣さるユダ此處と識りイエ  
 ス屢々ろの弟子と借も此お集りさき也 二 此時ユダ一隊の兵卒と下吏ども  
 と祭司の長等およびパリサイの人よりうけ炬と挑灯と兵器と携て此も來  
 たり 三 イエス事の己お及んとするを悉く知いで彼等お曰けるに誰と尋  
 るに 五 彼等おさへけるにナザレのイエスありイエス彼等お曰けるに我の  
 其ありイエスと賣しとユダ彼等と借も立り 六 イエス彼等お對て我ありと  
 曰さまへる時をばら退きて地お侍たり 七 イエス復彼らお誰と尋る乎と問

とまひしるを彼等ナザレのイエス也と曰イハハ イエス答けるイハ我すてイハ爾曹イハお我の其なりと曰イハ若とと尋るイハあらば此輩と容て去しめよイハ是イエス我お賜し者の中一人だお亡る者ありと云し言お應せん為ありイハ時おシモンベテロ劍と佩さりしが之と抜て祭司の長の僕と撃て其右の耳と削おとせり僕の名ハマルコスと云 イエスベテロお曰けるイハ劍と鞘お鞘よ父の我お賜し杯と我飲ざらん乎イハ斯て隊の兵卒および其長とユダヤ人の下吏イエスと執へ繫て先みとアンナスの所お曳往るをイハ此歳は祭司は長カヤバは外舅なるお因てありイハユダヤ人お議て一人民は為お死るの益ありと言しイハ此カヤバありきイハシモンベテロと外お一人は弟子イエスお従へり此一人は弟子の祭司は長は識とふる者おてイエスと借お祭司の長は庭お入 ベテロの門外に立り祭司は長は識とふるは弟子出て門と守る婢お告てベテロとともお入イハ是お於て門と守る婢ベテロに曰けるイハ爾も此人の弟子は一人あらす乎ベテロ然すと曰イハ僕等と下吏だち寒お因て炭

と焼ろれ處お立て煖まるベテロも彼等と借お立て煖まりイハ祭司は長イエスお其弟子と其教のふと問ぬイハイエス彼お答けるイハ我あらはお世お語り我つねおユダヤ人の平生おつまる所ある會堂および殿おて教誨とあし隠お語る事なしイハ何ぞ我お問る手とと如何のさりしる聽る者も問よ彼等とお言し所を知りイハイエス如此いひしお旁お立る一人は下吏掌おて彼と打いひけるイハ爾祭司は長お答るイハ此の如お イエス彼お答けるイハ若お及が語しおと善らざるを其善らざるを證せよ若し善ら何ぞ我と打やイハ借アイハンナスイエスと繫て祭司の長カヤバは所お遣さるイハシモンベテロ立て煖り居しが或人々いひけるイハ爾も彼は弟子は一人あらす乎ベテロ承すして然すと曰りイハ祭司は長は僕は中一人するのちベテロお耳と削をし者は親戚いひけるイハ我あんちが彼と借お圍お在しと見しお非ずやイハベテロと承の承の承順て編あきぬイハ人々イエスと曳てカヤバより公廳お往り時すでお平且ありき彼等汚穢と受んふとと恐て公廳に入らず蓋踰越は節筵と食

せんどすきバ也 二五 ピラト出て彼等お曰けるは如何ある訟ともて斯人よ訟  
 るや 三十一 人々あさへけるの彼もし悪と行る者お非ずの爾お解さじ 三二 ピラト  
 彼等お曰けると爾曹みもと取るんちらは律法お従ひて審判せよユダヤ人  
 々のきよ曰けるの我儕お人を殺れ權あし 三三 是イエス比其死んとする状  
 と指て語をるるもよ應へり 三四 ピラトまさ公廳お入イエスと召て曰けるの  
 爾のユダヤ人れ王あるや 三五 イエス彼又答けるの爾みれ事と言るの自己お  
 由る我お就て人れ告しよ由る 三六 ピラト答けるの我のユダヤ人あらんや爾れ  
 國れ民と祭司れ長と爾と我お解せり爾あよと爲しや 三七 イエス答けるの我國の  
 むれ世れ國お非ず若るの國みれ世れ國あらバ我僕わきよユダヤ人お付さ  
 いる爲お戦ふべし然と我國の此世れ國あらざる也 三八 ピラト彼お曰けるの  
 然を爾の王あるか イエス答けるは爾の言どころは如く我之王あり我みも  
 ぶ爲に生みしが爲お世お臨きり蓋眞理おついで證と爲んため也をべて眞理  
 お屬者は我聲と聽 三九 ピラト彼お曰けると眞理と如何ある者ぞ此事と言る

後まさ出てユダヤ人お曰けると我之斯人お罪あると見す 四〇 爰お爾曹お一  
 れ例あり我踰越れ節お一人れ囚人と爾曹お釋す爾曹ユダヤ人れ王と釋さ  
 ん事と欲ふや 四一 衆人まさ喊叫いひけるの斯人お非ずハラバと釋せハラバ  
 と盜賊ある也 四二

第十節 其時ピラトイエスと取て鞭切 二 兵卒をも棘おて冕と編かきれ首  
 お冠しめ又紫れ袍と衣せて 三 曰けるのユダヤ人れ王やそのを斯て掌おて  
 之と扑り 四 ピラトまた外お出て彼等お曰けるの我のをお就て罪あると見  
 す之と知せんとて爾曹お曳出せり 五 イエス棘れ冕とのぶり紫れ袍と衣て  
 外お出ピラト彼等お曰けるの觀よ此その人あり 六 祭司れ長等と下吏お

きと見て十字架に釘よ十字架お釘よと喊叫いふピラト彼等お曰けるの爾曹  
 のをよ取て十字架お釘よ我のをよ就て罪あると見ざる也 七 ユダヤ人のを  
 に答けるの我儕お律法あり其律法お従へば彼は死べき者あり蓋るを自己  
 と神れ子と爲るあり 八 ピラト此言と聞て益々懼る 九 また公廳お入てイエ

答さるる我あんぢと十字架お釘る權威あり亦あんぢと釋を權威あり此事  
 と知ざる乎 イエス答けるの爾上より權威と賜らずバ我又對て權威ある  
 事あし是故お我と爾又解しと者れ罪尤も大あり 此後ピラト彼と釋さん  
 と謀る然どもユダヤ人さけび曰けるの若ふきと釋さをカイザルお忠臣あ  
 らず凡て自己と王とあす者のカイザルお叛く者あり 十三  
 イエスと曳出し鋪石と云る所へブルれ言ひて譯バガバタと云とあるれ審  
 判の座お自ら坐れり 十四 其日は踰越節の備日おて時の約ろ十二時あるあり  
 きピラトユダヤ人お曰けると爾曹れ王と見よ 十五 ありら喊叫て之と除け之  
 と除け十字架お釘よと曰ピラト彼等お曰けるの我あんぢられ王と十字架  
 お釘べけんや祭司れ長等あたへけるのカイザルれ他と色らお王あし 十六 遂  
 おピラト彼と十字架お釘しめんとして彼等お信せり是お於て彼等イエスと  
 取て曳往り 十七 イエス十字架と負て鬪體と云る所へブルの言ひて曰バブル

十八 彼を十字架お釘より別お二人れ者おれと  
 借又十字架お釘らる一人の右一人は左イエス中よ居り 十九  
 十字架お釘け此ユダヤ人れ王あるナザレれイエスありと書たり 二十  
 ユダヤ人これ罪標と讀り蓋イエスと十字架お釘し所は京城お近けをバ也  
 ろれ標はへブルギリシヤロマの言ひて書たり 二十一  
 ラトお曰けるのユダヤ人れ王と書す勿き自らユダヤ人れ王ありと言しと  
 書すべし 二十二  
 十字架お釘し後それ上衣ととり四よ分て各それ一と取また裏衣と取り此  
 裏衣の縫あく上より渾く織るもの也けきを 互よ曰けるは之と裂ずして誰  
 れ屬にあらんり聞あすべし此の聖書お彼等たのひよ我衣と分て裏衣と聞  
 あすと云よ應せん爲あり兵卒ども己お此事と行り 二十三  
 姉妹れよびクロパれ妻の MARIA 並マグラの MARIA ろの十字架お旁お  
 立ち 二十四 イエス母と愛する所れ弟子と旁お立ちと見て母よ曰けるの婦よ此

むんぢれ子あり 三〇 また弟子曰ける此あんにぢれ母なり是時それ弟子の  
 色と己の家を携往り 三一 斯てイエス諸れ事の己を覺ると考り聖書に應せん  
 爲お我渴といへり 三二 此處に醋は満たる器皿ありしるバ兵卒ども海緘と醋  
 お漬し牛膝草を束て其口にお予ふ 三三 イエス醋と受し後いひける事竟ぬ首  
 と俯て鹽と付せり 三四 是日の節筵の備日あり此安息日の大なる安息日  
 色を屍と十字架に上り置みと欲ざるが故にエダヤ人ピラトに對ひて  
 此屍と折て其屍を取除みと求へり 三五 是に於て兵卒等イエスと借ひ十字  
 架を釘らさし者一人は脛と折 後おイエス  
 お來し己お死たると見て其脛と折ざりき 三六 一人は兵卒をて其骨と刺  
 けさば直お血と水と流出さり 三七 之を見し者證と立それ證の眞あり彼また  
 自ら言とふるは眞あると考る爾曹として信せしめんが爲あり 三八 是れ事成  
 り録して其骨一とも摧ざるべしと有る應せん爲あり 三九 また他は書お彼  
 等と刺し者と彼等觀べしと云り 四〇 是後アリマタヤはヨセフと云る者お

て前におエダヤ人と懼て隠おイエスに弟子とあさる者イエスに屍と取んとて  
 ピラトにお求ピラト之と許しお因ささりて其屍と取り 四一 また曩お夜間イ  
 エスに就しニコデモといふ人没樂と蘆薈と和およる百斤ばかり携來る 四二  
 彼等イエスに屍を取てエダヤ人は葬に例に循ひ之と布と香よて裹り 四三  
 十字架にお釘し其近傍に園あり園中にお未だ人お葬りし事なき新き墓あり 四四  
 是日のエダヤ人は節筵に備日あり又墓近ありけきを其處おイエスを置り  
**第一節** 一週は首は日の朝いまだ味うちおマグダラはマリア墓にお來て石  
 の墓より取去ありしと見 遂おモンペテロまおイエスに愛せし所は弟  
 子お趨往て曰ける墓より主と取し者あり我儕何處お置しや其處と知す  
 三 ベテロと彼一人は弟子いで墓に往 二人どもお趨る他の弟子ベテロ  
 より疾趨て先お墓に至ぬ 俯て屍と裹し布と置るを見ささきども入す 六  
 モンペテロ彼お後て來り墓にいり裹し布と置ると見たり 七 是れ首と裹し  
 手巾の屍と裹し布と同一お置す離て別れ處お疊て置り 八 是に於て先お墓お

來さる他は弟子も入こきと見て信せり 録してイエスは死より甦るべき  
 事あると彼等いまだ知ざる也 斯て弟子己の宿を歸きり マリアの墓  
 の外お立て哭けり墓をむらひ俯て 二人は天使あるき衣と著イエスは屍  
 と置たりし所は首乃方お一人足は方お一人坐し居と見たり 天使の色お  
 曰けるは婦よ何ぞ哭くや彼もたへけるは我主と取り者あり何處お置し  
 と知ざきむ也 如此いひて反顧イエスの立しと見る然どもイエスある  
 むとと知す 十五 イエス彼お曰けるは婦よ何ぞ哭くや誰と尋るの マリアと守  
 る人あらんと意ひ彼お曰けるは君よ爾もし彼と轉移しとあらば何處お置  
 しの我お告よ我ふきと取べし 十六 イエス彼おマリアよといふ婦あへりて  
 彼おラポニと曰り之と譯を夫子あり 十七 イエス彼お曰けるは我お捫ふと勿  
 れ我いまだ吾父お升ざきむ也とが兄弟お往ていへ我の吾父するはち爾曹  
 が父とが神するはち爾曹が神お升ると 十八 マグダラはマリア主と見しこと  
 と主は如此たれきお言給へるといふ事と弟子等お往て告○ 十九 此日は暮時

するはち一週は首は日弟子等ニダヤ人と懼るゝお因て集まる所は門を閉  
 たきしダイエス来て其中お立ちをらお曰けるは爾曹安のき 二十 如此いひし  
 後ろは手と脅と彼等お見す弟子たち主と見て喜べり 二十一 イエスまた彼等お  
 曰けるは爾曹安のき父の我と遣しと如く我も爾曹と遣さん 二十二 如此いひし  
 はち氣と嘘と彼等お曰けるは聖靈と受よ 二十三 あんぢら誰の罪と釋すども其  
 罪ゆるされ誰は罪と定るとも其罪さだめらるべし 二十四 イエス來しとき十二  
 は弟子は一人あるデドモと稱するトマス彼等と偕お在ざりき 二十五 是故お他は  
 弟子の色お曰けるは我儕主と見たりトマス彼等お曰けるは我もし其手お  
 釘は迹と見と指と釘の迹お探とが手と其脅お探お非ずを信せし 二十六 八日  
 と越し後また弟子たち室は内お在けるがトマスも彼等と偕お在り門と閉  
 たるおイエス来て其中お立て曰けるは爾曹安のき 二十七 遂おトマスお曰ける  
 は爾は指と此お伸て我手と見あんぢれ手と伸て我脅おさせ信せざる勿を  
 信せよ 二十八 トマス答て彼お曰けるは我主よ我神よ 二十九 イエス彼お曰けるは爾

見しと見しよ因て信す見ずして信ざる者の福あり 此書お録さるる外あ  
 は許多に奇跡とイエス弟子の前おて行り 此書と録せるの爾曹としてイ  
 エスに神の子キリストある事と信せしめ之と信じ其名お因て生命と得さ  
 せんが爲あり

第廿一章

此後イエス復テベリアの湖おて弟子等己と現せり其現せる  
 左の如し シモンペテロとドモと云るトマス及ガリラヤのカナレ  
 ナタナエルとゼベダイの子等また他の二人の弟子ともお在 シモンペテ  
 ロ彼等お曰けるの我漁お往ん彼等いひけるの我儕も借お往ん彼等いで  
 舟お登しが此夜の何の所獲も無りき 已お夜も明たるよイエス岸お立り然  
 ぞ弟子等ろのイエスある事と知す イエス彼等お曰けるの小子どもよ食  
 物あるや彼等みたへけるの無 イエス彼等お曰けるの網と舟は右に撒バ  
 所獲あらん遠お網とつ魚おほきに因て曳舉るよと能はず 是お於てイ  
 エスに愛せし所は彼弟子ペテロお曰けるの是主ありシモンペテロ主あり

と聞て裸ありしが衣とつけ帯して湖お投入ぬ 他は弟子等の小舟おて魚  
 の入たる網と曳て至れり蓋岸と距よと遠おらず五十間許ありけき也  
 岸お着しよ炭火と其上お載さる魚およびパンあると見たり イエス彼等  
 お曰けるの今獲し所の魚と少し携來き シモンペテロ舟おゆき網と岸お  
 曳來しお其網の中お大ある魚百五十三尾いりさり如此おほありけきと網  
 の裂ざりき イエス彼等お曰けるの來て食せよ弟子たち取て彼お爾の誰  
 あると問るよとせす此の主ありと知をあり イエス來てパンと取るを  
 らお予ふ魚とも亦ろの如せり イエス死より甦りしのち己と弟子等お現  
 せるよと是三次あり 儲おをくら食して後イエスシモンペテロお曰けるの  
 ヨナレ子シモンよ爾よをくらは者お過て我と愛するや彼いひけるの主よ然  
 わが爾と愛せるよとの爾知にイエス彼お曰けるの我羔と牧 また二次  
 のれお曰けるのヨナの子シモンよ我と愛する手を曰けるの主よ然と  
 爾と愛するよとの爾知にイエス彼お曰けるの我羊と牧 三次のれお曰け



るのヨナの子シモンよ我と愛する乎ペテロ三次曰きと愛する乎と言きし  
 お因て憂ふ斯て答けるの主あらざる所あし我るんぢと愛するもどの爾知  
 りイエス彼に曰けるの我羊と牧 誠お實お爾お告ん爾いとけあき時とば  
 ろら帶し意お任せて遊行ぬ老ての手と伸て人爾と束り意お欲ざる所お曳  
 至らん 如此いへるの其如何ある死おて神と榮んといふ事と示しとるあ  
 り此と言て後まと彼お曰けるの我お徒へ ペテロ反顧イエスに愛せし弟  
 子に從へると見この弟子の食する時イエスは懷お倚て主と賣す者の誰ぞ  
 やと問し弟子あり 三 ペテロ之を見てイエスお曰けるの主よ斯人いあお  
 イエス彼お曰けるの我をし彼お存て我來ると待と欲バ爾お何れ與あらん  
 や爾の我よ徒へ 三 是お於て此言兄弟れ中お傳りて此弟子死すと語り然と  
 もイエスペテロお彼の死すと言しお非ず我もし彼お存へて我來ると待と  
 欲バ爾お何れ與あらん乎と言しなり 三 此等れ事おついで證とあし且みき  
 と書しと者と其弟子あり我儕それ證れ眞なる事を知り 三 イエスの爲し事

の此等の外おあほ許多あり若あきと一々志るしるバ其書あゝの世お載盡す  
 ほと能じと意ふ也アーメン

2069  
DEC 22 1949

λ  
1  
9

02110-20

